

地域活動専門員日誌

伝統の郷土芸能を未来へつなごう



宮田賢樹さん



「踊り納め」の様子

旧青笹中の生徒が取り組んできた「青笹しし踊り」は、1700年代に伝えられたとされ、毎年11月23日に供養とその年の踊り納めがされている青笹伝統の郷土芸能です。今年には東中学校誕生の年であり、保存会や中学校、PTAと連絡調整しながら練習の支援をしてきました。新東中生は青笹しし踊り保存会として遠野まつり、六神石神社例大祭、踊り納めへ参加しました。

これまで長く親しまれてきた地域の伝統の継承を、支援し続けたいと思います。

SL運行応援企画！

SL運行を記念しソバ焼酎を開発！



来春運行が予定されているJR釜石線「SL銀河」へ向け、新企画を立ち上げました！市内ではすでにSL限定商品の販売や各種イベントなどが開催されています。それらを紹介しSL運行を応援します！

第1弾はSL運行を記念し開発された本格そば焼酎「遠野郷」の発売のお知らせです。容量720ml、アルコール度数は25%で、玄そばをもちに作る方法が特徴。他のソバ焼酎よりも香りを楽しめます。製造本数5,000本で、SLラベルを限定500本で発売中です。

■販売価格 2,100円(税込み)
■販売場所 県内酒販店※限定商品はふるさと公社、市内の酒販店まで

1_パティシエを先生に夢ケーキ作りに挑戦する児童 2_完成したケーキはどれもかわいらしく夢でいっぱい 3_最後は完成したケーキを全員で鑑賞・試食し、夢を語り合いました



ケーキで描く遠野の未来 パティシエらが特別授業

全国の菓子店などで組織するNPO法人ドリームケーキプロジェクト(長野県、清水慎一代表)は10月30日、遠野北小学校で児童らと「夢ケーキ」を作りました。同法人の会員や市内のパティシエが講師。6年生71人は、グループごとに設計図を作成し、砂糖菓子のマジパンでかたどったカッパや動物、建物などをスポンジケーキに飾り付け、未来の遠野の理想像をケーキで表現しました。パティシエを目指している石綿梨子さんは「アイデアを形にすることが楽しかった。将来はお菓子で人を幸せにしたい」と夢を膨らませました。

田中一郎さんの写真作品展

- ◆期間 来年1月6日まで、9～17時(12月29日～1月3日は休館)
- ◆展示場所 まちなかギャラリー(中央通り、お食事処伊藤家向かい)
- ◆入場 無料



目録を市長(左)に手渡す田中さん

遠野の風景写真市に寄贈 神奈川県の田中さんから

神奈川県相模原市で耳鼻咽喉科医院を営む田中一郎さんは11月7日、これまで撮影してきた遠野の風景写真48点を市に寄贈してくださいました。寄贈式は遠野まちなかギャラリーで行われ、田中さんは「遠野の昔から変わらない風景を作品に残したいと思い、撮影してきました。地元の皆さまも目にすることがない風景もあると思

うので見ていただければ幸いです」と自身の作品に思いを込めました。田中さんは昭和39～41年の3年間、県立遠野病院に勤務。その後、相模原市で医院を開業・経営する傍ら、100回以上も本市を訪れ、風景などを撮影してきました。寄贈に併せ、同ギャラリーで作品展を開催しています。



1_植樹した斜面を背景に「はいっ、チーズ!」。今年もたくさんの方が参加しました 2_林業関係者のアドバイスのもと植樹に汗を流す参加者 3_記念標柱を設置 4_森林愛護少年団は枝打ちに挑戦。高い所もご覧の通り 5_親子で自然愛護の大切さを学びました

緑あふれる遠野を築こう 市斎場で里山フェス開催

市緑化祭「里山フェスティバル2013」(同実行委員会主催)は11月9日、市斎場・永遠の丘周辺で開催されました。参加した地域住民や市内の森林愛護少年団の団員ら230人は、植樹などの保護活動を通じ、自然保護の心を育みました。同実行委員長の本田市長は「市民が一丸となって緑豊かな遠野を築いていきましょう」とあいさつ。活動では、アジサイの苗木を300株植栽したほか、森林愛護少年団は森林の枝打ち作業にも挑戦しました。最後は記念標柱を設置。佐々木詩織さん(小友小6年)は「枝打ち作業は難しかったけどやりがいがあった。これからも自然を大切にしていきたいです」と汗をぬぐいました。



自然栽培の豊かさ再発見 遠野麦酒苑で販売会開催

無農薬栽培に取り組む農家やその素材を使った料理などを提供する店による販売会「クーラ・キャラバン」(田村和夫『太陽と月の家』代表・三浦聖貴『カラコマ工房』代表ら主催)は11月17日、宮守町鱒沢の遠野麦酒苑で開催されました。市内外から11団体が出店し、各店は農産物や化学肥料を使わないで栽培した食材やそれを使用した料理、天然素材にこだわったキャンドルやインテリア雑貨などを販売。このほか、ヨガやキャンドル作り体験、種採り講習会なども開催され、訪れた人は自然味あふれる催しを楽しんでいました。田村代表は「自然に近いものは体にも優しい。その大切さを多くの人に知ってもらいたい」と思いを語りました。



こだわりの一品を買い求める客でにぎわう会場

懐かしのメロディー再び 「遠野ブルース」復活発表会

終戦後の市内で流行していた歌謡曲「遠野ブルース」の復活コンサートは11月11日、あえりあ遠野交流ホールで開催されました。訪れた250人は、約60年の時を経てよみがえった同曲の旋律を口ずさみ、当時に思いを馳せました。自身の病気をきっかけに菊池久彦さん(79)＝宮守町鱒沢＝が復活に取り組み、長男でピアニストの南里さん(53)＝千葉県在住＝と市内の主婦らで構成する「遠野ブルースを歌う会」の協力を得てCD化。コンサートでは、南里さんのピアノに合わせ歌う会が同曲を披露したほか、復活までの経緯や流行していた当時の思い出が紹介され、観客も一緒に口ずさみながら当時をしのびました。



当時に思いを馳せながらブルースを歌う参加者